

筑波大学附属駒場中・高等学校

第50回教育研究会のご案内

「つながる学び」

3年以上にわたり猛威を奮ってきた新型コロナウイルスでしたが、今年5月の連休明けから感染法上の5類に移行し、本校もウィズコロナの新しい学校運営を始めています。日本全体が長く続いた暗いトンネルから抜け出しつつある中、第50回の節目を迎える本校の教育研究会を、昨年に引き続き対面で実施できることを大変うれしく思います。

本年度の研究主題は、「つながる学び」です。昨年度の研究主題である「知の共有」を引き継ぎ、さらなる一步を踏み出します。「つながる学び」とは、私たちが学びの中で出会う様々なつながりと、それによって広がる新たな価値観の探求です。生徒と生徒、生徒と教員、生徒と社会、学校と社会、学校と世界、そして生徒と世界といった様々なつながりの中で、私たちは自分自身を位置づけ、新たな学びの深化を追求することができます。ウクライナ紛争を始めとする世界の分断が加速し、教育の質の低下や不均衡の発生が懸念される中、「つながる学び」は、私たちにとってますます重要になっています。そこでは異なる価値観が交差し、結びつくことで、新たな教育研究の領域が拓かれる可能性があります。それは、多様性を受け入れ、尊重する姿勢のもとで、共に成長し、未来をグローバルに切り開いていく力となるでしょう。

また、今年度は文部科学省が推進する「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」について議論します。これは筑波大学が採択され、本校がその実証研究協力校として選ばれて実施しているものです。私たちはこれを、未来の教育に貢献する貴重な機会として捉えるとともに、特別な才能を持つ生徒たちへの支援を推進し、彼らがさらなる飛躍を果たす手助けになることを目指しています。これに関連する松村暢隆先生の講演では、才能の概念や才能教育の理念、個別最適な学びの方法について解説いただき、「困っている才能のある生徒」への指導や支援についても理解するとともに、全ての学校で困っている才能のある子供たちを支援し、適切な学環境を整備する条件を模索します。併せて今年度は国語、数学、保健体育、美術の各教科で実施する公開授業をご覧いただき、各教科でお招きしている専門分野の助言者にご協力いただきながら授業を題材に参加者全員で検討していただきます。

第50回教育研究会は、新たな学びと新たなつながりを築く場として、私たちの学校の伝統を受け継ぎながら、次の50回に向かって進化し続ける大切な一步です。校務等多忙のこととは存じますが、一人でも多くの先生、教員を目指す学生、関係者の方々にご参加いただき、ご助言賜りますよう、ご案内申し上げます。

2023年10月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長 北村 豊

記

1. 期日・場所

- 2023年11月18日(土)
- 筑波大学附属駒場中・高等学校

〒154-0001 東京都世田谷区池尻4丁目7番1号 電話 03-3411-8521 (代表)

FAX 03-3411-8977

URL <https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp>

2. 研究主題

「つながる学び」

3. 日程

8:30~9:30	9:30~10:20	10:40~11:30	12:40~14:40	15:00~16:30
受付	第1校時	第2校時	研究協議会	講演会

〈1〉公開授業(9:30~11:30)

第1校時(9:30~10:20)

教科	題目と要旨	学年	授業者
国語	年間を通して行う擬古文の授業 今年度、中三古典分野の授業では、日本語学の知見を活かした授業を実施してきた。今学期は『源氏物語』を題材にして現代語訳から本文への「復文」に取り組んでいる。平安和文の特徴や現代語との違いについて考える機会としたい。	中学3年	西山 明浩
数学	三角関数のグラフ 本校数学科では、関数の和や積に着目したグラフの見方・捉え方を重要視している。多項式で表された関数はイメージしやすいが、三角関数ではどうだろうか。本授業を通じて、三角関数の加法定理や合成に対する理解も深めていきたい。	高校2年	森脇 雄
保健体育	GIGA 端末を用いた姿勢写真分析 直立姿勢を前・横・後の3方向から撮影し、写真データをGIGAスクール構想で貸与されている情報端末を用いて分析しレポートを作成する。	中学2年	合田 浩二

※美術は第2校時のみの実施です。

第2校時 (10:40~11:30)

教科	題目と要旨	学年	授業者
国語	<p>異学年交流による書くこと（作文）の授業</p> <p>書くことを生きたコミュニケーションの過程として捉えた場合、学習指導では相手や目的をより具体的に意識させることが課題となる。そこで今回は、中高一貫校の強みを活かした、異学年生徒の交流による意見文作成の授業を構想してみた。</p>	中学1年 高校3年 公開授業 は中1	東城 徳幸
数学	<p>テーマ学習（数学とゲーム開発）</p> <p>中学で実施している探究学習で数学を選択した生徒が、数学を題材にしたゲームアプリの企画・開発をしている。本時では、実際に開発するゲーム企画のプレゼンを行い、それぞれのグループのアイデアをディスカッションする機会とする。</p>	中学3年 （選択）	三井田裕樹 須藤 雄生
保健体育	<p>剣道に声を呼び戻す</p> <p>コロナ禍により発声なしで剣道を学習した生徒たちに気を声として発することを習得させたい。その途中経過をご覧いただきます。</p>	高校1年	登坂 太樹
美術	<p>身近な生活とデザイン</p> <p>学習指導要領は、主題の生成やアイデアの構想に関する学びの重要性を示している。そこで、問題発見、問題解決のフレームワークとして注目される「デザイン思考」をテーマに、問いを見出し、アイデアを展開する活動を軸としたデザイン題材を実施した。本時は生徒による最終的な提案の発表となる。</p>	高校2年	川人 武

〈2〉研究協議会（12:40～14:40）

教科	主 題 ・ 内 容	担 当 者
国 語	「公開授業をめぐって」 各公開授業について、授業者からの趣旨説明と自評、参観者からの質疑応答をまとめた研究協議を行う。	授業者 西山 明浩 東城 徳幸
		発表者 本校国語科
		助言者 長田 友紀 筑波大学人間系教育学域 准教授
数 学	I 「公開授業をめぐって」 各公開授業について、授業者からの趣旨説明と自評、参観者からの質疑応答をまとめた研究協議を行う。 II 創造的な探究活動を促す教材の開発および教材開発の枠組みの構築 数学科では過去 20 年以上にわたり、生徒の創造的な探究活動を促す教材の開発と実践を行ってきた。近年ではこの蓄積をもとに、教員間での教材開発の枠組みの構築をめざしている。これに関連した昨年度～今年度の数学科の取り組みを報告する。	I 授業者 三井田裕樹 須藤 雄生 森脇 雄
		II 発表者 須藤 雄生
		助言者 Scott Carnahan 筑波大学数理物質系准教授
保 健 育	I 「公開授業をめぐって」 II 「自己の姿勢や生活習慣を教材とした保健学習の可能性」 筑駒中・高では、姿勢写真や生活習慣を教材とした独創的な保健授業が長年にわたって行われており、このような授業にどのような特性と成果があるのか、科学的視点から検証を行います。	I 授業者 合田 浩二 登坂 太樹
		II 発表者 合田 浩二
		助言者 徐 広孝 静岡産業大学スポーツ科学部 准教授
美 術	I 「公開授業をめぐって」 授業者からの趣旨説明と自評および質疑応答をまとめた研究協議を行う。 II 「中等教育におけるデザイン題材の可能性について」 デザインによる問題解決のスキルや経験は社会に広く注目される一方、公教育におけるデザイン学習は、造形表現の技術を中心に扱われることが多く、社会との接続を目指す理念との乖離が指摘される。中等教育に求められるデザイン学習とは何か、参加者とともに考える機会としたい。	I 授業者 川人 武
		II 発表者 川人 武
		助言者 上平 崇仁 専修大学 ネットワーク情報学部教授

〈3〉講演会（15:00～16:30）

題名 困っている才能のある生徒への支援と環境整備

講演者

松村 暢隆氏（関西大学名誉教授）

専門は発達・教育心理学、才能教育、2E教育。1990年代よりアメリカの才能教育の研究を行い、近年とくに2Eなど「困っている才能のある子」の指導・支援に探求の重点をおいている。

文科省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」の委員を務めた（2021-22年）。本年度、本校の文科省「特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」実証研究の運営指導委員も務めている。

主な著書に『才能教育・2E教育概論』、『2E教育の理解と実践』（編著）、『認知的個性』（共編著）、『才能と教育』（共著）、『アメリカの才能教育』など、主な訳書に『MI：個性を生かす多重知能の理論』（ガードナー）、『個性と才能をみつける総合学習モデル』（レンズーリ）などがある。

概 要

文科省の「特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」が本年度度から開始され、本校もその中の実証研究校として採択された。現在、次の4つの校内プロジェクトが進められている。①「駒場」の生徒観、学校観、教育観を考える、②「駒場」の環境デザインー空間・時間・人間ーを考える、③「駒場」レガシーの継承と活用を考える、④「駒場」らしい国際交流 その将来性を考える。

学習・生活上で「困っている才能のある子」は、どの学校にも存在して、才能と発達障害等の障害（傾向）を併せもつ「2E」の場合だけでなく、例えば過度のこだわりや完璧主義などの才能特性が原因で困難をもつ場合もある。しかし、才能特性に不適合な場では困った行動や意識が生じるが、適合した学校環境では才能をうまく発揮できる。筑駒では、生徒の多様な才能を伸ばし活かすために適合した学習・生活環境が伝統的に存在してきたが、生徒の個別のニーズにより細かく適合させる理想的な環境整備が課題となる。

本講演では、才能の概念や才能教育の理念と多様な方法を整理しながら、個別最適・協働的な学びのなかで全ての生徒の才能を活かし得ることを述べる。筑駒の「困っている才能のある生徒」への教室内や保健室等での指導・支援の在り方を論じて、どの学校の困っている才能のある子も救われるような、学校環境の整備条件を探りたい。

◎講演に加え、本校での生徒支援の取り組みについて、一部ご紹介いたします。

4. 問い合わせ・申し込み

- 参加資格 参加は教育関係者に限らせていただきます。
- 定員 国語科・保健体育科・美術科 40名程度／数学科 100名程度（先着順）
定員に達し次第、教科ごとに申し込み受付を終了いたします。
- 資料代 1人当たり1,000円です。当日受付で現金にてお支払い下さい。
- 参加申込 本校WEBサイト（下記）からお申し込み下さい。お申し込みいただいたメールアドレス宛てに受付完了メール（自動返信）が届きます。受付完了メールが届かない場合は、下記のメールアドレスまでお問い合わせ下さい。なお、定員上限に達し参加をご遠慮いただく場合につきましては、係から別途メールにてご連絡いたします。
- 問い合わせ先 本校研究部 e-mail アドレス：komaba.kenkyubu@un.tsukuba.ac.jp
- 交通機関 末尾の地図をご参照下さい。自動車での来校はご遠慮下さい。
- 宿泊施設 宿泊施設は、渋谷周辺の宿泊施設が便利です。各自でお申込み下さい。

—— 参加申込先 ——

本校WEBサイト

URL <https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp/seminar2023/>

申込期間 2023年10月17日（火）～11月9日（木）予定

定員に達し次第、教科ごとに申し込み受付は終了いたします。

※教育研究会当日の11月18日（土）は、渋谷駅山手線内・外回り線路切換工事に伴い、山手線外回りの大崎～渋谷～池袋間が終日運休となります。ご来校の際にはご注意ください。

特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業

特定分野に特異な才能のある児童生徒は、その才能や認知・発達の特性等がゆえに、学習上・学校生活上の困難を抱えることがあると指摘されています。しかし、これまで我が国の学校において、特異な才能のある児童生徒を念頭においた支援の取り組みはほとんど行われてきませんでした。

本事業は、こうした児童生徒への支援方策を開発し推進するため、多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として、特異な才能のある児童生徒に対する支援に関する文部科学省による取り組みです。

筑波大学が本事業に採択され、本校はその実証研究協力校となり、教室内外の学習・生活環境がいかなる作用をもたらしているか、以下の三つの柱で実証研究を行っております。

- (1) 教室内の学習・生活環境の、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証
- (2) 学校内における多様な学びの場の設定や連携、関連する環境整備、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証
- (3) 学校外における機関との連携と、学校外における学びの場の充実、専門的見地からの言語化ならびに理論的検証

スーパーサイエンスハイスクール（略称SSH）について

文部科学省が平成 14（2002）年度から実施を開始した研究開発事業で、高等学校等を対象とし、理数系教育を重点的に実施することにより、その改善に資することを目的としています。

本校では、H29 年度より R2 年度まで SSH 第 4 期、研究開発課題「国際社会に貢献する科学者・技術者の育成を目指した探究型学習システムの構築と教材開発」について、以下の 4 つを柱として、研究開発を実施してきました。今年度は SSH 第 4 期経過措置 2 年計画の第 2 年次として引き続き研究を推進しております。

- (1) 国際社会に貢献する科学者・技術者を育成する探究型学習の教材開発と実践
- (2) 主体的な探究活動をするための基礎力育成カリキュラムの開発と実践
- (3) 探究型学習を実践するためのプログラム開発とサポート体制
- (4) 探究型学習システムの構築と他校への発信・共有

筑波大学附属駒場中・高等学校案内図



○利用交通機関

京王井の頭線「駒場東大前」駅西口下車徒歩 7 分

東急田園都市線「池尻大橋」駅北口下車徒歩 15 分

(渋 51) 東急バス (渋谷ー若林折返所)

(渋 54) 小田急バス (渋谷ー経堂) いずれも「駒場」下車徒歩 1 分